

# The 2 Chome Times 2022年3月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO286号

2022年・3月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス3月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

## ★第17回ストリートミュージアム収蔵作品の作家をご紹介します

4月2日(土)にセンター街2丁目のストリートミュージアムに新たな作品を収蔵する第17回目となる式典が開催されますが、今回はガラス作家、高橋禎彦氏の「謎」という作品です。高橋禎彦氏は1958年生まれの東京都出身で、多摩美術大学でガラス制作を学び、在学中に京都で開催された世界クラフト会議に参加したことをきっかけに、ガラス作家の道を歩みます。会議のなかで、ガラスで自由な表現を切り拓く海外作家たちに触発された高橋氏は、その後様々な方法を作品に取り入れながら、ガラスの多彩な表情を引き出してこられました。特に溶けたガラスを扱うホットワークによる作品は、制作のなかで感じるガラスの粘性や動きを生かして作られているのだそうです。柔らかなフォルムや滑らかな表面は、溶けたガラスの重みや遠心力といった、素材に加わる原理的な力をコントロールしながら、無駄のない動作によって形作られます。ガラスの反応と対話するなかで、遊ぶように素材に働きかける高橋氏の作品はどこか謎めいた姿をもち、その感触について見るものの想像を促すのだそうです。今回の新しい作品が収蔵される際にその説明となる銘板ですが、次のようなものです。まさしく説明そのものが「謎」です。その「謎」解きにご興味のある方は挑戦されてみてはいかがでしょうか！



### 《 謎 》

意味があるのか、無いのか？ それが大事なことなのか？ なぜここにあるのか？これって何なのか？

わかるのが大事なことなのか？ わかるってなんだ？ どうしてそう思うんだ？ 高橋禎彦

## ★神戸市立博物館 特別展 「大英博物館 ミイラ展」に行ってきました！

5月8日まで神戸市立博物館で催されている特別展「大英博物館 ミイラ展」を覗いて来ました。



歴史の殿堂として知られる英国・ロンドンの大英博物館は、古代エジプト文明の研究でも世界を牽引してきました。本展はCTスキャンを用いた画像解析によって、外側からはうかがい知ることのできないミイラの謎を解き明かし、古代エジプト人の生活や文化を紹介しています。神々の像やミイラ作りの道具は、古代エジプトの信仰や死生観がうかがえる一方、女性の装身具や子どものおもちゃなどは、今も



昔も変わらない人々の暮らしを伝えてくれます。ミイラと言えば神秘と少しの怖れを感じる存在だと思えますが、古代エジプト人は来世に向かうには遺体の保存が必要であると考えていたようです。前4000～3500年頃のミイラは砂漠の熱で遺体が乾燥し、自然にミイラ化したものもあるようです。ミイラに関する細かい説明は本展にお任せするとして、印象に残った事柄を少し紹介します。古代エジプト人の主食はパンと濃厚なビール、裕福な人は肉をよく食べ、豆・魚・鶏肉・ナツメヤシ・イチジク・ザクロ・キュウリ・ニンニク・葉タマネギとなかなか豊かで、ビールは大麦から作られ大事な食べ物であり、どろどろしたスープ状の液体であり、現在の様な“喉ごしスツキリ”とはいかなかったようです。そして現在でも動脈硬化は問題ですが、この時代も同じ症状があったり、骨のスキャンからは一部のミイラでは癌が骨

に転移していたことがうかがい知れるそうです。香水・オイル・化粧品はこの時代でも存在し、死者にも供えられ、それは来世でも見た目に気を付ける必要があったからだとか。同じ人間だから当然かもしれませんが、面白いですよ。皆さんも観られた事があるかもしれませんが、映画「クレオパトラ」に出てくる女性は目の周りが少し黒く見えますが、これはまつ毛、まぶたを「コホル」と呼ばれる黒い粉で守っていたからであり、この「コホル」が後の「アルコール」という言葉に変化したそうです。実に興味深い！！ご興味の湧いた方は神戸市立博物館で是非、本物のミイラとご対面してください！

神戸市立博物館：神戸市中央区京町2 4 番地 TEL 078-391-0035

HP <https://daiei-miira.exhibit.jp/>

### ★今年も皆様のご理解を！ 4月2日は世界自閉スペクトラム症啓発デー！

“Light It Up Blue” は世界 172 国が青い光で繋がり、ASD（自閉スペクトラム症）への理解を拡げる運動です。LIUB キャンペーンでは「ブルー」をテーマカラーとして、ブルーのライトアップをしたりブルーのものを身につけたりすることでオーティズム（自閉スペクトラム症）や発達障がいの人達の応援の意思を表すことができます。オーティズムや発達障がいの人達は“ 社会の理解と支援 ”を必要としています。オーティズムや発達障がいには軽度な状態から重度、また学習障がい(LD)や、注意欠陥多動性障がい (ADHD)、アスペルガーなどが含まれますが、これらの人々は共通して「見え方」や「聞こえ方」など、五感の一部または全てに特異性が見られ、その特異性から生理的にストレスがかかっています。日本では、まだオーティズムの原因が「親の育て方」や「心の病」と誤解されているケースが多く見られており、当事者家族は子育ての困難だけではなく精神面での負担が伴っているのが現状です。皆様でこの現状を正しく理解し、社会全体で当事者の方々を支えていく必要があります。今回（オーティズム・フレンドリー・ベア、名前は “ハロクマ” ）と呼ばれる可愛いキャラクターが採用されていますが、この様々な色のパズルピースは社会や人々の多様性を表現していて、皆様のご理解により、パズルが埋められていくというコンセプトを表現したものです。オーティズムは自分たちが思っている以上に大変身近な課題であることを認識しなくてはいけない時代に入っています。



### ★編集後記

「許せない」、この一言につきます。ロシアのウクライナへの侵攻。神戸市の久元喜造市長は、ウクライナ出身の職員が神戸市に在職していることなどを踏まえて、ユニセフ（国連児童基金）を通じて、緊急支援金 1000 万円を拠出しました。そして三宮の街衆も各企業から支援金を集め、一回目の 100 万円を 3 月 4 日に東京のウクライナ大使館まで直接お届けしました。さらに有志が街頭に立ち、ウクライナへの支援金のお願いをし、皆様からお預かりした 160 万円余りを 2 回目として 3 月 17 日に、これもまた直接ウクライナ大使館にお届け致しました。冷徹な人間がこの様な蛮行を行うのは歴史が繰り返し証明していますが、この現代においてもまた繰り返されてしまいました。ニュースで見たウクライナの幼い女の子が泣きながら唇を震わせて「戦争だとわかっている。死にたくない」と言っていた姿が忘れられません。私達に出来ることは限られていると思いますが、皆様の各店舗にも募金箱を既にお配りしておりますので、皆様の心温まるご協力を宜しくお願い致します。



美しい街 共に歩む ビルメンテナンス  
つるかめ管財株式会社 078-371-3589

